GW「地域学校協働活動を市内に展開するためには？」（第２回会議）
【①地域に必要なこと】【②学校に必要なこと】【③自分にできること】のまとめをご覧になって・・・
質問１　あなたが思い描く「地域学校協働活動」の姿は？

・地域の将来を担う「子供たち」の学びや成長を、地域の住民で支え、協働で様々な活動を行える。
・「地域」と「学校」のパートナーシップを築く　←　継続して活動できるコーディネーターが必要
・地域に存在する、幅広い多くの「タレント（個人や団体）」の発掘と、ゆるやかなネットワークの形成
〇協働について
・まちで**地域学校協働の概念**が広く共有されている。
（そのためには、行政の地域学校協働のビジョンが明確であり、推進体制が整っている。）
・**地域学校協働を推進する立場（行政、教育委員会、市民）の人同士**の**連携協働体制**がとれていて、それぞれがミッションを持ち、**一体的推進**が行われている。
（社会教育の専門的な知識を有した人が統括的なコーディネートを行う必要がある。）
〇活動について
・多種多様な人々が**“関わり合う”機会**がある。
・**多世代間の学び合い**が成り立っていて、**たのしいおもしろいまなび**がそこにある。
・子供たちが地域に出て、郷土学習を行う。
・地域住民と共に地域課題を解決する。
・地域の行事に参画して共に地域づくりに関わる。
・地域に住む子供から高齢者、全ての人々が集えて共に活動し、地域社会の持つ問題・地域の文化を伝える。
・顔を知る活動（草引きでもよい）学校生活を支えることが地域を支えることになる。
〇学校という施設や空間が、児童だけの教育の場ではなく、地域全体の教育や学びの場所となること。児童が教育要領に基づいた授業を受けるのは大前提ではあるが、例えば地域史の分野でなら、地域の人々が、
→空き教室で史料の整理をしている（明石市では古文書整理と解読をしている）
→空き教室で史料や文化財についての情報交換や展示をしている
→図書室で市立や県立の図書室とデジタルでつなぐことにより書籍を閲覧している
以上の活動を日常（週に１～２回でも）として行い、児童や教諭も自由に出入りし情報交換ができるというのを思い描いている。
新たに「活動」を始めなくても、現在それぞれの地域でどのような活動をしているかを、まずきちんと調査把握し、それらを学校という場に取り入れるというのが良いと思う。
・地域が気軽に入っていける学校づくり（参観日、音楽会、運動会）
・気軽に出ていける地域づくり（学校探検）
・自分ごととして地域の課題、学校の課題を考えられる場の提供
・コロナとの共存をどうしていくか。
・学校と地域は、お互いに理解し、よりよいパートナーになることが大切で、地域の幅広い年代が参画して、子どもたちを育む必要があると思う。
・子どもたちに、まず、地域に愛着や誇りを持ってもらう。そして子どもたちも地域の行事やイベント、お祭り、ボランティア活動に参画し、楽しさや達成感を味わうと共に、未来の創り手となってもらえるようにする。
・その鍵は、人材育成の連続性で、主体的に地域と関わる人を増やすことだと思う。いろいろな世代が集まりやすいような施設の充実も不可欠である。
・全市民が自主的に且つ積極的に協働すること。

・自治協などの活動拠点を学校敷地内に移し、防犯・防災や生涯学習などを連携する。
・学校の先生も、勤務地の地域をしっかり語れるようになりたい。

質問２　大人の学びが生まれるために必要なことは？

・新しいことにチャレンジする「気持ち・行動」←でも、「誰かの後押し」も必要
・「学校」の存在が、子どもたちだけでなく、大人の学び（生涯学習）の場となって地域に存在しようとしている点を、知らしめる。
・先生方の理解が何処まで進み、前向きなのか？
・大人の学びにこだわらない。（他世代間の学び合いを意識する。）
・多世代間との交流の中で自分のやりたいことを振り返る。
・子どもから学ぼうとする姿勢。
・“自分を表現する”から“社会の為に自分の得意を役に立てる”へと意識を変えると学びの深まりが増す。
・例えば、郷土の伝統文化や地域防災などについて大人が子供に教えるためには、まずはそのことについて大人がしっかりと学ばなければならない。子どもたちの教育に関心を寄せ、地域を挙げて育てていこうという熱意のある地域団体や知識・経験豊富な地域の大人のかかわりが必要。
・また、学校に関わるということは、学校を知ることが重要。
　ボランティアとして学校に関わることで、学校や子供たちの様子、考えを知ることができる。
・まず共に楽しく参加できること（お茶会、黒豆づくりとか）
・そこで今、現状の中の問題点などから、学びを生み出すことが出来るかと思う。
〇学ぶことが楽しいと思えること。
　学校教育での学習には「成績」や「順位」がつきまとい、受験のための学習は「手段」であった、など、学習が楽しいものでは無かった経験が、本来の学ぶ楽しさを遠ざけているのではないか。
昨日まで知らなかったことを今日は知ることができた、というのは楽しいことであるし、そのことにより新たな発想が生まれるということは、人間として誰もが持ちうる幸せなことであると思う。
・SNS での情報発信
・講義形式でなく、誰もが話せる茶話会形式（お茶とお菓子）
・地域の人材ネットワークの構築
・自分自身のことで恐縮であるが、公民館を利用させてもらい水彩画サークルに所属していることや、寿学級で花作りを学び、楽しんでいる。人とのかかわりが深まったり、興味が深まったりすると、何か役に立つことができないかな…ということにつながったと思う。そのような機会があることと、キャッチできることが重要だと感じる。
・数年前、地域の小学５年生を対象に、古代米の稲刈りの体験学習をお手伝いしたことがある。鎌の持ち方や刈り方、束ね方など自分もうまくできないことを、いかにうまく教えることができるのかと考えた。当日小学生との交流で元気をもらえたのを覚えている。そのような経験も学びだと考える。
・視点を変えること、固定概念を取り除くこと。意識改革を促す機会。
・まずは住民が学校のことを知ることが必要。その機会を地域と学校が一緒につくる。
・小中学校の部活支援を地域住民で関わることで、大人の学びにつながる。
・自治会では公民館活動において社会教育のつながりがあるが、自治協議会にはない。今後、地域学校協働活動を進める上で、自治協へ社会教育による学びの場づくりの働きかけが必要。

質問３　地域学校協働活動を市内に展開するために・・・【①地域に必要なこと】【②学校に必要なこと】【③自分にできること】について追加があればご記入ください。

【①地域に必要なこと】

・「子供たちの成長」は、学校だけにお任せしても、地域の将来を担ってくれる大人に成長しないことへの気づき。
・みんなで社会を創るという意識をもつこと。
・課題を惜しみなく共有し、それらの課題に対して**何かできないのか？**をみんなで考える。
・【目標の共有】次代を担う子供たちに対して、どのような資質を育むのかという目標を共有することが必要。
・【より幅広い層の住民の参画】より幅広い層の住民が参画し、子供たちの成長を地域で担うため、地域における学校との連携・協働を積極的に推進していくことが必要。
・【環境整備】公民館などの社会教育施設をはじめとする学びの場や ICT を活用したものも含め、多様な形態による学習機会を整備すること。
・地域：自治協議会など…他の自治協議会の活動も参照して、できることを洗い出す
　行政：地域ごとの既存の活動を把握するとともに、支援の具体例を示す。

【②学校に必要なこと】

・学校（学校運営協議会）で「困っていること」の情報発信。
・地域のメリットをしっかり捉える。
・抱えている諸課題を手放す意識をもつこと。
・学校で実施出来なかった体験活動や実験等の公表（希望など）
・学校へ入りやすい体制づくり（ルールが必要）
・出前事業の希望を募る。学校（子どもたち）から選んでもらって出前事業の依頼。
・児童の安全は確保しつつ、開かれた空間になるようにする。地域に頼れるところは頼る。

【③自分にできること】

・地域の環境（特に里山環境（山遊びや味覚））を一緒に学べる場づくり
・地域学校協働の意義や価値の啓発活動を行う。
・地元学校でとにかく実践する。
・ボランティアや社会資源の紹介やマッチング。
・(私は地域史の分野に限られるが) 地域や学校のニーズを聞きながら、それぞれに合った関わりを探りたい。児童向けには、出前授業、夏休み自由研究のアイデアづくり、資料館見学の案内などを実施、地域との取り組みでは、歴史カフェやフィールドワークを実施してきた。
・何でも参加してみる。(地域の行事など)